

玉川こども図書館視察報告書

おはなしレストランライブラリー司書 尾崎智子

1. 日 時：平成 22 年 2 月 16 日
2. 視察先：玉川子ども図書館
3. 対 応：館長補佐 司書 蚊田頼明様
4. 蔵書冊数：約 60,000 冊 かみしばい 1,888 冊(平成 21 年 3 月現在)
洋書約 3,000 冊
5. 質問内容

絵本の選定・購入について

- ① 絵本の選定基準
ロングセラーの本を多くて 30 冊くらい購入している。漫画は購入しない。
- ② 購入の際、見計らい等はどのようにしているか
TRC(図書館流通センター)から送付された本を、司書の方が、実物を見て選んでいる。その際、戦隊もの、アニメは外している。
- ③ 利用者からの本の購入のリクエストは受けているのか
リクエストは受けているが、ほとんどリクエストされることはない。

絵本の配架について

- ① 絵本の配架基準
ストーリー重視なので、作家の名前で 50 音順。
- ② 絵本の配架法
・日本の絵本と世界の絵本も分けずに並べる(昔話は別置)。
・赤ちゃん向けの絵本も別に配架(窓際に配架)。
- ③ 配架の工夫
・一番見える所に、ロングセラーの本を並べる(季節にあわせて変える)。
・入口付近に季節ごとの展示をしている(お正月、ひな祭りなど月ごとに変える)。

利用・貸出について

- ① 1 回の利用での貸出冊数及び期間
ひとり 10 冊まで、2 週間借りることができる。
- ② 紙芝居・大型絵本の貸出はしているのか
紙芝居は絵本と扱いは一緒。大型絵本は、破損しやすいため、団体のみ貸出する。

読み聞かせのイベントについて

- ① おはなし会はどのくらいのペースで開催しているのか

ほぼ毎日おはなし会イベントを行っている。留学生が、その方の母国の絵本の読み聞かせを母国の言葉で、歌をまじえながらされる場合もある。

- ② おはなし会はボランティアの方がすることもあるのか
ボランティアの方がほとんどされている。玉川子ども図書館のボランティア研修を受けた人のみに限る。
- ③ おはなし会以外のイベントはどのようなものがあるのか
 - ・講演会
 - ・絵本の病院(絵本の修理の講座)
 - ・パソコン教室
 - ・折り紙で遊ぼう
 - ・クリスマス会、コンサートなど
- ④ 図書館外での活動
金沢市は、小学校に司書がいないため、玉川子ども図書館の司書が巡回している。

その他

- ① 他にはどういった部屋があるのか
 - ・おはなし会専用部屋(ここに紙芝居も配架)。

2階

- ・授乳室。その部屋には、簡単なキッチンも備え付けられており、おもちゃと少し絵本も置いてある。
 - ・洋書の部屋
 - ・団体で来館されたときの読み聞かせの部屋
 - ・小中学生の絵画などの展示会場
 - ・パソコンの部屋
- ② 利用者を増やし、絵本を普及させるための工夫
 - ・近々ブックスタートを始める予定で、今絵本選びをされている。
 - ・幼稚園、保育園部会に参加し、よびかけをする。→近くの幼稚園の子どもたちが、週に一回2冊ずつ借りていく。団体で来館される。
 - ・保育士向けの講習会を開く→自然に絵本を借りていかれる
 - ・ロングセラーの絵本を一番見える所におく。→どんな絵本を選んでよいかわからないお母さん方の目にとまるように。
 - ・玄関に地域の子どもと芸術大学の学生と一緒に作った作品が展示してある。→その作品を目当てに子どもとお母さんが来館する。
 - ・子どもの絵本だけではなく、大人向けの本も少し置く。
 - ③ 本の探し方
検索機が2台置いてある。

④ ボランティアに依頼していること

- ・おはなし会
- ・イベントの手伝い
- ・パトロール
- ・返本

⑤ 子ども図書館として気をつけていること

- ・机の角を丸くする。
- ・書棚をあまり高くしない。
- ・ベビーカーの設置
- ・スタッフが同じジャンパーを着ていて、質問しやすいようにしている。

6 視察を終えて

すぐ前に公園があり、ガラス張りで、蔵書数も多く、広くて明るい施設でした。平日で悪天候のなか、たくさんの方が来館され、子どもたちは、お母さんの膝にのって楽しそうにおはなし会を聞いていました。おはなし会を聞く方がいないという理由で中止になることはほとんどないそうです。

授乳室が個室になっており、その部屋には、絵本が少しとおもちゃも置いてありました。気兼ねなく、くつろいで授乳ができます。そういったスペースがあると赤ちゃん連れのお母さんは、足を運びやすくなります。授乳室の必要性を強く感じました。

近くの幼稚園の子どもたちが、かばんをもって、週に一回2冊絵本を借りにくるそうです。そうしていくうちに、図書館が身近な存在となり、大きくなっても自然と図書館に通う子が増えるのではないのでしょうか。図書館利用のマナーも身に付きます。

おはなし会をほぼ毎日のようにされているそうです。今、子育て中のお母さんは、どんな絵本を読み聞かせしてよいのか分からない方が増えてきているのだそうです。おはなし会で読まれた絵本を子どもが喜んで聞いていれば、その絵本を借りて帰ろうと思えます。それを続けていくと、どんな絵本が子どもにとってよいのか分かってきます。

ボランティアの方もたくさん関わっておられました。パフォーマンスを好んでされる方が多くなってきたというお話も伺いました。そうすると、子どもたちはお話をした人の顔しか浮かばず、ストーリーが頭に残らないそうです。そうなるのを防ぐためにもボランティア向けの講習会を開かれるそうです。本の修理の仕方の講習会もボランティアの方がされるそうで、一つのことを大事にすることを利用者に伝えていくのは素晴らしいことだと思いました。

今の公共図書館の生の声を具体的に聞くことができ、大変参考になりました。たくさんの方に足を運んでいただき、絵本の素晴らしさを伝えるには、利用者の目線に立って考えるのはもちろん、図書館側からのいろいろな働き、努力があつてこそだということを勉強させていただきました。